

困は広い。各個人生命保険の特約その他で、加入スミと思われるので、扱いをとりやめにしてはどうですか。  
 ②職員がなすべきことをしないで、市に損害を与えた場合、損害賠償を請求すべきと考えますが。  
 ③他市では広告を掲載している。広告を掲載し、収入増を図る予定は。

成東中学校のHP学校の行事予定は、11月で、終了8月の行事予定表の掲載なし。東中学校の学校の経営方針は、平成16年度のまま生徒数など一切不明。

市外の知りたいたい人にわかりにくい。

A ①少し整理をして検討させてほしい。

②仕事にあまりにも怠慢で穴があいていた場合には、それなりの責任をしっかりと自覚してもらわないといけない。

③前向きな検討をしている段階。

恥ずかしくないものを目指していきたい。

## 医療センターの経過報告

山武市長 椎名 千収

成東病院の内科の入院を再開できたことは、暗闇に一筋の光が射した思いです。皆様が今一番関心をお持ちでいらっしゃる山武地域医療の現状を説明いたします。貴重な紙面をご提供くださいました編集委員会にお礼申し上げます。

### 【成東病院について】

昭和二十八年から二十九年にかけて、当時の二十四町村の合意により、八十八床の国保成東病院が医師八名、看護師十三名で運営を始めてから半世紀、三百五十床の山武郡の中心的救急病院に成長するまでの道のりは、苦難の連続であり、そこには多くのドラマがありました。

その成東病院と私が初めての関わりを持ちましたのは十六年前です。初めの四年間は病院議会の議員として、その後八年間は管理者として経営にたずさわりました。そしてこの三年間は一人の市民として見守って

きました。

管理者の立場から三人の院長先生の支援をしてきましたが、現院長の坂本先生は赤字体質から経営を立て直し、救急患者の夜間受け入れ態勢を整えてくださいました。山武郡の救急医療は成東病院を核として大きく改善されたのです。私は苦勞を共にしてくださいました先生方や多くの職員に心から感謝しています。

その成東病院がこの様な危機に陥ってしまった原因は、医療制度改正による医師不足が一番大きいのですが、その一方で、医療センター計画に多くの関心が集中してしまつた結果、成東病院に起きていた現実問題への対処が疎かになってしまった結果だと思えます。

医療収益が大きく減少し、難しい運営を強いられることになりましたが、成東病院を元の元氣な姿に戻す事は公約であり、私に与えられた大きな責務です。状況がどんなに厳しくても、この地域で私たちの命を託す病院は成東病院しかありません。

私は医師の確保をはじめとして一層の努力を傾け、職員一丸となって皆様の信頼に応えて参ります。

### 【新しい医療センター建設について】

計画中の医療センター構想に対しての私の考えは、選挙活動を通してお聞きした皆様の声を集約し、公約にまとめたとおりです。

医療センターは救急センターというよりは、「将来、只一つ残す公立の総合病院」と理解しなければなりません。その意味から、建設予定地をもっと身近な、便利などところへ代えて欲しいと申し入れていきます。けれども、これは「九市町村長による合意事項」であるとしてなかなか受け入れていただけません。

新たな問題も浮上してきます。それは地方を取り巻く最近の苦しい財政状況です。合併した山武市に約束された国の援助は、現実には見込みを大きく下回るものでした。人口の減少も著しく、これからの山武市の

経営は厳しいと予想しなければなりません。その上医療関係の有識者の多くが将来の病院経営の難しさを指摘していますし、民営化に傾いている国の考え方も慎重に見極めなければ、先行き公立医療機関の経営破綻を招きかねないと心配しています。新しい医療センターの収支見込みがたっていない現時点で、巨額の投資は避けるべきです。しかも「山武地域医療センター」を建設すれば、それで医師不足が解消し、救急医療体制が整う」という考えはあくまで仮定であり幻想に近いものです。

私の考える山武地域医療の再生は、現実の医療から出発して、一步一步着実に歩んでいく方法です。そのような考えにもとづいてこの二、三年の間に取り組む事は「成東病院の機能回復」です。医療行政の方向を見定めながら、すべての努力をその一点に傾注すべきであり。それが山武の地域医療整備の正しい道筋だと私は考えています。